

被災地の子どもと教職員へ、学校と教育の復興へ、全国から支援と激励を！

東日本大震災支援ニュース

全教・教組共闘 東日本大震災対策本部

第 2 1 号

2011 年 7 月 4 日

「子どもたちのため、 大切に使いたい」

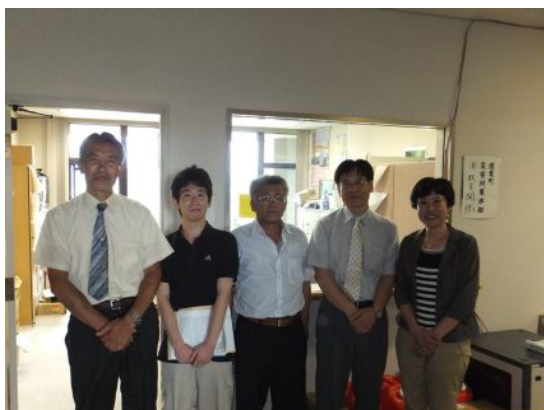
— 全国からの震災募金で、自治体訪問続く —

6月30日、会津地方に臨時庁舎を設けている福島県大熊町・檜葉町・葛尾村の各教育委員会を訪問し、義援金をお渡しするとともに、子どもたちや学校の現状、教育活動をすすめる上での課題等の聞き取りをおこないました。

訪問には、全教から中村尚史書記次長、小畑雅子中央執行委員、福島高から佐藤哲夫会津支部長、菅家慶広執行委員（葛尾村のみ）が参加しました。

最初に訪問した大熊町の武内敏英教育長は、「大熊の子は大熊の手で育てたいとの思いから廃校となった校舎を借りて、1か所に子どもたちを集めて学校を再開した。小学生は半分、中学生は6割が会津にいる」「子どもたちは学校が始まったら元気が出てきた」ときりだしました。

現在大熊町としては、2名の講師を独自に雇用していること、避難場所からのバス通学に1日40万円のバス代がかかっていること、臨床心理士がつかないで心のケアに詳しい町の保育士を教育委員会の職員として養護教諭とのタイアップであたっていることなど、困難な状況の中でも子どもたちと教育のために奮闘されていることを語ってくれました。



課題としては、5月1日現在の学級数で教職員が配置されているが、その後、会津に移ってくる家庭も多く1学級増えたのに、教職員は増えないままになっていること、廃校となった校舎を利用しているので設備が整っておらず、理科の実験などは近くの学校の理科室を使用させてもらっていることなどでした。教職員の兼務発令についても様々な矛盾を抱えていることも報告されました。

次に訪問した檜葉町は、教育委員会事務局の佐藤さんが対応してくれました（最後に小沢則文教育総務課課長補佐兼学校教育係長と対面、写



真撮影)。

檜葉町では、人口 8000 人のうち 1000 人が会津地区に、3000 人はいわき市に避難している。そして、会津には、160 人の小・中生がそれぞれの学校に区域外就学していること、



延期していた卒業式が 7/16~18 の三連休を使ってやっとできること、校長先生 3 人（中学校 1、小学校 2）が 1 人は浜通り、1 人は中通り、1 人は会津地区と分担して子どもや教職員の状況把握に努めていることなどの実態を聞き取りました。

最後に訪れた葛尾村では、猪狩省造教育長との懇談でした。葛尾村の子どもたちは、会津坂下町と柳津町に区域外就学しており、小学生は 72 人中、会津坂下町に 12 人、柳津町に 15 人、中学生は 33 人

中、会津坂下町に 9 人との報告でした。

葛尾村では現在、三春町に 400 戸+20 戸の仮設住宅を建設し、行政区ごとに入居してもらう予定で、夏休み明けには、三春町に移住し、子どもたちも三春町に区域外就学をする予定、三春町では学校給食も含め対応してくれることになっているとのことでした。

保護者も郡山に職場を持っている人も多く、会津より三春の方が実態に合っている。しかし、子どもたちの中には、会津で慣れたのでかわりたくないという声もあるとのことでした。また、「国は、仮設校舎については費用を出してくれるということだが、時間と場所がない」「きめ細かな線量を測ってほしい」「子どもの健康チェックをしてほしい」「線量計は、子ども 1 人 1 人に配布してほしい。区域外就学のみで学校を開設していないところには、線量計は配布されていない」などの悩みや要望を語ってくれました。

また、「1 月に幼稚園も含め耐震対策を終わったばかりだった。おかげで校舎に被害はなかった。にもかかわらず、使えない。一般会計 15~6 億円の予算で 3 億円の耐震対策費を使ったのに」「地震では住宅の瓦がずれた程度の被害しかなかったのに、原発事故のために大変なことになった」と原発事故への悔しさをどの自治体も共通して語ってくれました。

自治体訪問では、子どもや住民に心を寄せた対策をとろうと苦労されていることがよくわかり、避難先での生活や教育に関わっての行政のあり方として、住民の目線で行うことの大切さを痛感しました。そしてそのためにも、住民や子ども一人一人に目が行き届く行政の規模であるべきだとの思いを強くしました。

義援金については、どの教育委員会も「子どもたちのために大切に使用させていただきます」という返事をいただき、教育活動に役立てたいとの思いが伝わるものとなりました。

教職員については、兼務発令等で単身赴任となっているなど家族とはなれての勤務を余儀なくされている人も多く、8 月 1 日の異動で解消される期待もあるとともに、子どもたちとの関係もあり、単純に割り切れない悩みがあることもわかりました。

